

1 文学館設立の趣旨

1 - 1 文学館設立の趣旨

千葉県市川市は、古代から現代に至るまで、文学的土壌の豊かな土地であり、多彩な文化人の活動の拠点となり、多くの文芸作品を育み、様々な文学活動が展開されてきた土地である。

その文化人の中には、文学史において、大きな功績を遺している著名な作家も少なくない。

これらの概要は、1982年（昭和57）刊行の『市川の文学』（神作光一氏監修）に詳述されている。

これまで市川市では、市民と文学を結ぶ施設としては、長年、図書館がそれなりの機能を果たしてきたが、市川の文学を体系的に研究し、かつ専門的に公開していく施設ではないため、資料の収集保存、教育普及活動などの観点から、必ずしも、十分な展開が図れたとはいえない側面もあった。

市川市では、こうした現状に鑑み、2005年（平成17）市川の文学に光を当て、身近なものと感じられる、新しい文芸発信の拠点として、生涯学習センター内に「市川市文学プラザ」を開設した。

ここでは、水木洋子寄贈資料を柱の一つとし、併せて、市川ゆかりの文人たちの業績を広く紹介することを目的に、企画展をはじめ、さまざまな事業が試みられている。

文学プラザが設置されたことで、関連資料の積極的な収集と、文学関係者の共感及び支援が得やすい体制は作られたが、既存施設の暫定的利用のため、今後の大きな展開には、不十分な点も否めない。

市川の文学が、真に市民の文化資産として共有化され、彩り豊かな文化と芸術を育む「文化都市」を築くためには、市川の文学を体系的に研究し、かつ専門的に公開していく機関として、「市川市文学館」を設立していくことが、不可欠であり、ここに基本構想をまとめる次第である。